

<別紙1>

第三者評価結果報告書

① 第三者評価機関名

一般社団法人 日本保育者未来通信

② 施設・事業所情報

名称：横浜市松見保育園	種別：認可保育所	
代表者氏名：横浜市役所 山中竹春	定員（利用人数）： 98（103）名	
所在地：〒221-0005 横浜市神奈川区松見町1-28-4		
TEL：045-432-6621	ホームページ：	
【施設・事業所の概要】		
開設年月日：1980年05月01日		
経営法人・設置主体（法人名等）：横浜市		
職員数	常勤職員： 21名	非常勤職員： 32名
専門職員	園長： 1名	保育士： 35名
	調理員： 5名	その他（事務・保育補助）： 12名
施設・設備 の概要	乳児室： 1室	保育室： 5室
	調乳室： 1室	多目的ルーム： 1室
	トイレ： 3カ所	多目的トイレ： 1カ所
	事務室： 1室	調理室： 1室
	ホール： 1室	屋上広場／園庭あり

③ 理念・基本方針

【保育理念】 未来を担う子どもたちの健やかな幸せを願って
【保育方針】 子どもの「生きる力・伸びる力」を大切にする
【園目標】 いっぱい遊ぶ子ども・生き生きと活動する子ども・豊かな表現のできる子ども・自分もまわりも大切にする子ども

④ 施設・事業所の特徴的な取組

【育児支援事業、ネットワーク構築事業を通して、広く地域や関係施設に貢献しています】 園は育児支援事業の拠点園となっており、育児支援担当保育士を配置し、様々な育児支援事業に取り組んでいます。これまでの取り組みとして、園庭開放、育児講座、交流保育、ランチ交流、ホール開放、誕生会、育児相談等が挙げられます。 育児支援担当保育士は、毎月の園庭開放の利用者数等を分析し、地域福祉のニーズの把握に努めています。保護者同士の交流の場や子育て等について話せる人の存在の必要性、同じ年齢ぐらいの子どもと遊ばせたいという思いなど、細かな地域の福祉ニーズや生活課題等の把握をしています。また、園庭開放を利用する家庭との交流の中で、個々の家庭におけるニーズの把握にも努めています。園では、把握された福祉ニーズにもとづき、育児支援計画を作成し、年間カレンダー及び月の育児支援カレンダーを記載したチラシを地区センターや地域ケアプラザ、また、地域の親子広場や図書館等の施設に郵送するとともに、地域の子育て支援拠点で配布しています。さらに、園外の掲示板や区のホームページでも伝えています。育児支援事業の中で、子どもと

の接し方や遊び方など、日常の様々な心配事の相談を受けるとともに、一人ひとりの保護者の長所を引き出し、育児支援事業を利用して良かったと感じられるよう取り組んでいます。

園は市の保育資源ネットワーク構築事業の事務局園であり、ネットワーク専任保育士が常駐しています。保育資源ネットワーク構築事業としては、「保育の質及び専門性の向上」「地域子育て支援の充実」「保育のセーフティネットの構築」「地域の保育・教育施設の連携推進」の4つの事業に取り組んでいます。ネットワーク専任保育士は、区の保育・教育施設間の連携や交流のための「つなぎ役」を担い、保育の実践研修、子育て支援に関するイベントを共同実施する等、それぞれの持っている特徴を生かした様々な取り組みを行っています。「保育の質及び専門性の向上」では、神奈川区保育資源ネットワーク構築事業研修計画を作成し、各種保育要録の書き方、コーチング研修、防災研修、こどもの救急法など幅広い分野の研修を実施しています。オンラインによる研修の申し込みの案内や、各研修内容を紹介したチラシ等も作成しています。また、ネットワーク通信を定期的に発行し、研修案内や研修報告の写真の掲載、防災イベント案内の掲載などを行っています。「地域の子育て支援の充実」では、神奈川区保育所子育て支援連絡会と連携し、地域子育て支援イベント『みんなdeこそだてワイワイパーク』を実施しています。神奈川区内の保育・教育施設の職員他、子育て支援拠点『かなーちえ』『子がめ隊』のスタッフも参加し、区内の地区センターや、子育て支援拠点等で実施しています。

その他に、保育資源ネットワーク構築事業では、かめかめレンタルと呼ばれる、保育用品貸出事業を行っています。レンタルでは大型絵本やパネルシアター、また心肺蘇生の研修で使用する人形等の貸出を行っています。貸出一覧のカタログや利用方法、申込フォームのURLはクラウドサービスを使用し確認できる体制が整っています。また、ネットワーク専任保育士は区内の保育・教育施設を訪問し、園の困りごとに対して、区内の情報を伝えたり、研修の案内等を行っています。その際に、保育の楽しさを感じてもらえるよう配慮しています。区には、127の保育・教育施設がありますが、区内にネットワーク専任保育士は1名のみです。今後は、区内のネットワーク専任保育士の配置人数を増やすことで、保育・教育施設の訪問回数の増加やネットワーク専任保育士間で協議する場を構築するなどの取り組みにつなげることが期待されます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2023年6月18日（契約日）～ 2024年3月18日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（2018年度）

⑥総評

◇特長や今後期待される点

【保育理念である『未来を担う子どもたちの健やかな幸せを願って』の実現に向けて、職員間の共通認識や連携を通して、全職員で取り組む体制を整えています】

園では、保育理念である『未来を担う子どもたちの健やかな幸せを願って』の実現に向けて、様々な取り組みを実践しています。園では分野ごとにプロジェクトチームを形成し、定期的な会議を行い、共通理解のもと、具体的な実践につなげています。プロジェクトチームには、園内研修、みどりアップ事業、行事、第三者評価プロジェクトがあり、全職員がいずれかのプロジェクトに所属しています。園内研修では、SDGsの取り組み、嘔吐処理や不審者対応、第三者評価、乳幼児突然死症候群、虐待に関するガイドライン等について取り上げ、会計年度任用職員も参加し実施していま

す。さらに、日々の保育内容については、ドキュメンテーション日誌を作成し、園長や主任と写真を通して具体的な子どもの様子や取り組みを共有しています。その際に、子どもの発達の視点が示されているかなどについて確認し合い、保育内容について共通認識が持てるよう取り組んでいます。

このような共通認識は他職種とも図られています。一例として、調理師は子どもの喫食状況を観察するだけでなく、食材についてのクイズを出すなど、直接子どもと関わることで、日ごろの子どもの様子についても把握し、保育者との共通認識にもつなげています。共通認識をもとに、食育の実施や調理方法の工夫などの取り組みをしています。また、職員会議や毎月の保育の振り返りと次月に向けての取り組みについて検討するカリキュラム会議では、全職員で共通理解を持てるよう、参加できない職員に対する報告会を設けています。

これらの職員間の共通認識は、子どもの園庭遊びにも反映されています。園庭では自然と異年齢交流が行われ、保育者全体で子どもを見る体制が整っています。保育者が子どもの傍を離れる際は、引き継ぐ保育者に遊びの過程等も共有することで、一人ひとりの子どもが遊び込めるよう配慮しています。また日ごろから、定期的な会議以外の場においても、子どもの様子や活動について伝えあう風土が醸成されています。これらの取り組みを通して、保育理念である『未来を担う子どもたちの健やかな幸せを願って』の実現に向けて全職員で取り組む体制を整えています。

【保育の中に子どもの発想を取り入れた活動が展開されています】

園庭ではダンゴムシ、テントウ虫、バッタなど様々な昆虫と触れ合う機会があります。テントウ虫の発見から飼育を行い、子どもの興味関心に寄り添って、栽培物のアブラムシ退治などの活動が広がるように援助しました。また、カイコの飼育からカイコ博物館を実施するなど、日ごろから子どもの言葉に耳を傾けながら、興味関心に寄り添い、子どもの活動が、自発的に展開できるようにしています。さらに、園庭にはさつま芋畑だった場所に、子どもたちの発想で、山やトンネルを作りました。現在は、全年齢の子どもがジャンプしたり、トンネルをくぐったりして遊べる場所となっています。

【園独自の中期計画の策定と振り返りの仕組みづくりが期待されます】

園では、区の運営方針である、誰もがいきいきと暮らし続けられるまちづくり、地域がつながり魅力にあふれるまちづくり、安全・安心なまちづくりの3つの施策にもとづいて、単年度計画となる、「松見保育園 目標共有のために職員で取り組みたいこと」をまとめ、具体的な実施内容を記載しています。一例として、「誰もがいきいきと暮らし続けられるまちづくり」では、食（食べる事）への取り組み、「地域がつながり魅力にあふれるまちづくり」では、ネットワーク構築事業への取り組み、「安全・安心なまちづくり」では、地域防災力への取り組みなどが記載されています。年度末に保育所自己評価を実施し、保護者に公表するとともに、次年度以降の課題に取り組んでいます。

今後は、区の運営方針に基づき、会計年度任用職員(日額職)の採用と、日々のシフトの体制等、園独自の課題に対しての中期計画を作成し、実施状況を評価する仕組みづくりが期待されます。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

職員数が多く、いろいろな雇用形態の職員がいます。その全職員が松見保育園の保育を見つめ直す良い機会となりました。

話し合う中で、一人ひとりが自分の業務を保育を振り返り「保育の語り合い」ができ

ました。そして、園としての良い点と課題が見えました。
具体的に保育の取り組みや気付きを出し合う事で職員間の連携を深め、一層風通しの良い保育環境作りにつながりました。

- ⑧第三者評価結果
別紙2のとおり